

NEWS

JAAF
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会

第95号

R2.12.27発行

全国高校陸上2020
コロナ禍での開催。
地元選手の大活躍で
盛り上がる！



JAAF
Japan Association of Athletics Federations

表彰状

ジュニアオリンピックカップ
全国高等学校陸上競技大会 2020

目 高校女子やり投(600g)

成績 第1位

記録 54m43

西条農業高校・広島
村上 碧海

2020年10月24日
日本陸上競技連盟

村上碧海(西条農)



小林祐大(福山工)



浅木都紀葉(皆実)



迫田力哉(西条農)



末盛巧(修道)

2020 Japan National High School Athletics Meet & U20 Japan National Championships

陸上人

FILE0032

初の日本一を勝ち取る!

村上 碧海

女子やり投

西条農業高校

Aoi Murakami

プロフィール | 村上碧海 (むらかみ・あおい) / 2004年 (平成16年) 3月11日生まれ
所属: 祇園中学校→西条農業高校

主な成績 | 2019年 第74回国民体育大会 (茨城) → 6位 47m65

- 小林祐大 (こばやし・ゆうだい) 2002年 (平成14年) 6月30日生まれ
男子走高跳→男子走高跳 / 所属: 神辺西中学校→福山工業高校
主な成績 / 2019年 第28回中国高校新人 (岡山) → 優勝 2m00
- 浅木都紀葉 (あさぎ・つきは) 2003年 (平成15年) 12月29日生まれ
女子100mH / 所属: 口田中学校→広島皆実高校
主な成績 / 2019年 第13回U18日本選手権 (広島) → 4位 13秒90 (76.2cm)
- 迫田力哉 (さこだ・りきや) 2002年 (平成14年) 6月14日生まれ
男子ハンマー投 / 所属: 瀬野川中学校→西条農業高校
主な成績 / 2019年 第13回U18日本選手権 (広島) → 53m94
- 末盛巧 (すえもり・たく) 2003年 (平成15年) 6月14日生まれ
男子三段跳 / 所属: 修道中学校→修道高校
主な成績 / 2019年 第28回中国高校新人 (岡山) → 優勝 15m02



残すは1投のみ。土壇場で思い出したのは恩師の大林和彦総監督の言葉だった。「普段通りに投げれば大丈夫だ」。落ち着いた助走から放たれたやりは、低い軌道でぐんぐん伸びた。記録は自己ベスト、そして高校2年の日本歴代3位となる54m43。「大林先生を日本一にできて良かった」と

表情を緩めた。地元開催も快投の一助に。「知っている競技役員の方ばかり。目が合うと笑ってくれて、やりやすかった」と振り返った。

小学時代にドッジボールで培った強肩が武器だ。祇園中では2年まで短距離に取り組み、3年で初めて砲丸投げに出場。いきなり県中学校選手権を優勝するなど頭角を現し、大林総監督の目に留まった。「見た瞬間に、この子は絶対にやり投げで日本一になれると思った」と恩師は振り返る。

入学後は順調に成長。1年時のインターハイは予選落ちしたものの、秋の茨城国体では6位に入賞。2020年は「3年生に勝って日本一に」と目標を掲げ、冬季練習に打ち込んできた。だが、新型コロナウイルスの影響でインターハイは中止。秋の

広島は精鋭たちが、高校陸上界の再スタートに花を添えた。新型コロナウイルスの影響で中止されたインターハイに代わり、従来のU18日本選手権を模様替えて10月23～25日にエディオンスタジアム広島で実施された「全国高校大会2020」。女子やり投げで優勝を果たした2年の村上碧海 (西条農) をはじめ、地元選手の活躍が大会を大いに盛り上げた。

今季全国トップの53m97の記録を持って臨んだ村上は、逆転に次ぐ逆転で初の「日本一」を勝ち取った。硬さの見えた予選の2投は50mに届かず、5位でトップ8による決勝へ進出。3投目で52m86をマークして首位に立ったものの、「いい投てきではなかった。すぐに抜かされるはずと、不安しかなかった」。直後に予選トップの中野胡桃 (福島成蹊) に53m44で抜き返さ

れた。U18日本選手権は年齢区分が異なるため、対決を諦めていたところへ、日本陸連が全国高校生大会として実施することを決定。「もう一度、対戦できる」と待ち望んだ舞台だった。

秘めた思いもあった。前日に先輩の3年迫田力哉が男子ハンマー投げで2位。競技日には、先に実施された男子やり投げに出場した兄の3年村上蒼輝 (広島市工) が予選で敗れていた。「皆さんのためにも、絶対に自分が勝とうと思っていた」。思いを力に変えた逆転劇だった。

ただ、記録には全く満足していない。「助走がうまくないので、練習でしっかり改善したい」と課題を見据える。日本高校記録は、現日本記録保持者の北口榛花が出した58m90。だが16歳の狙いはそこではない。「60mを目指して頑張っていきたい」と大きな目標を掲げて冬季練習に取り組む。

大会初日を盛り上げたのは迫田だった。日本高校記録に8cmに迫った垂井祐志 (四国学院大香川西) に優勝を譲ったものの、安定した投てきで2位。「課題の1投目から記録を残せたのは一つの成長。大学でも垂井君が一番のライバルになるので、追い付き、追い越せの気持ちで練習していく」と雪辱を誓った。最終日の最終種目となった男子走り高跳びは3年小林祐大 (福山工) が自己ベストを5cmも更新する2m14を跳んで2位。「前夜はわくわくして眠れなかった。本当にうれしい」と地元での躍進を喜んだ。

村上と同じ2年生では女子100m障害の浅木都紀葉 (皆実) と男子三段跳びの末盛巧 (修道) も2位と健闘した。浅木は「考えすぎている」という予選を最も遅いタイムで通過したが、決勝は抜群のスタートから2位に躍進。精神力と修正力が光った。「決勝は楽しむことを考えた。来年こそは全国優勝する」と意欲を見せ、13秒5台の記録に挑んでいく。

末盛は前日の走り幅跳びで両脚を痛めたものの、得意の三段跳びで実力を発揮した。「すべての面でレベルアップしたい」と来季は16m台に挑む17歳。織田幹雄を生んだ広島から、久々に楽しみなジャンパーが台頭してきた。

感染対策も徹底し、今後の大会開催の指針となった今大会。広島の陸上界にとっても、2021年への希望が大きく膨らむ3日間となった。

text by K

全国高等学校 兼 U20全国陸上競技大会 陸上競技大会2020を終えて

●開催日 / 2020 (令和2) 年10月23日 (金)・24日 (土)・25日 (日) ●開催会場 / 広島広域公園陸上競技場 (エディオンスタジアム広島)

#その想いと共に

2020年3月24日、新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大するなか、日本のみならず世界中の人々が楽しみにしていた「東京オリンピック・パラリンピック」が史上初めて延期されることとなった。4月26日には全国の運動部活動に励む高校生の夢舞台であり、高校生最大のスポーツの祭典として、1963年から毎年開催されてきた全国高等学校総合体育大会の全競技中止が決定された。その後、鹿児島県で実施される国民体育大会も延期となった。多くの高校生が悲しみ、目標を失ったのではないと思う。しかし、日本陸上競技連盟を中心に広島陸上競技協会・全国高体連陸上競技部と協議し、5月22日にインターハイの代替大会を秋のU18・20日本選手権大会に行うことが決定された。当初は新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されていたが、社会情勢もコロナウイルス感染予防を行いながらの生活にかわって行く中、7月には陸上競技大会開催に向け日本陸連からコロナウイルス感染症拡大防止のガイダンスが発表され、徐々に大会の開催が行われるようになり全国大会開催の準備が開始された。

大会の日程は予定通り10月23日 (金)～25日 (日) の3日間で開催され名称はインターハイの代替大会として全国高等学校陸上競技大会2020兼U20全国陸上競技大会に名称変更となり、大会種目も昨年度U18男子15種目、女子15種目、計30種目から全国高校が男子19種目、女子18種目、計37種目に変更され、U20は昨年同様男女とも14種目計28種目、3日間で高校・U20合計65種目の競技が行われた。会場は広島広域公園陸上競技場で全国47都道府県より高校生1140名、U20 360名、役員・審判員398名の参加を得ての開催となった。大会に先立ち準備の段階から三宅勝次会長をはじめ河野裕二専務理事がコロナウイルス感染症拡

大防止対策を考え日本陸連のガイダンスに沿っての安全・安心な競技運営と選手に対して思いやりを持った運営をするよう説明された。コロナウイルス感染症拡大防止の観点から集まるとの会議は2回しか行うことができず、リモートで準備は進められた。競技役員には大会に向けて、昨年より種目や参加人数が増えタイトなスケジュールとなり不安もあったと思うが、思いやりを持って誠心誠意審判業務に当たって頂いた。例年のインターハイでは多くの抗議や苦情があるが、今大会ではそれほどなく、期間中他県の監督や選手から多くの部署で大会開催にあたっての感謝の言葉を頂いた。大会が開催され多くの方々へ感謝されたことは今大会の一番の収穫だったのではないと思う。また、今大会は高校生にとって同じ条件での唯一の全国大会で、高校生の活躍が目立った。本県の選手も近年インターハイ入賞者は3～5名くらいであったが今大会では優勝を含め入賞者11名、U20では入賞者2名と活躍し、地元開催に華を添えてくれた。

3月から6月まで休校や練習ができないことで多くの高校3年生の生徒達は引退を余儀なくされた事は非常に残念だったと思うが、この大会はその仲間の思いを背負い大会に参加した選手達の生涯の思い出になった大会だったと思う。まさに全国の高校生にとって「秋のインターハイ」として心に残る大会になったのではと確信する。

最後になりますが、この特別な大会を4日間早朝から準備・片付けを始め多種目にわたって運営していただいた広島陸上競技協会の皆様、企画・運営していただきました日本陸上競技連盟、広島市、広島県、全国高体連陸上競技部、協賛していただいた皆様に心より感謝申し上げます。報告とさせていただきます。ありがとうございました。

広島県高体連陸上競技部委員長 大林和彦



新型コロナウイルス 感染防止対策を徹底した大会運営 JAAF

今大会では、日本陸上競技連盟が定めた「陸上競技活動再開についてのガイダンス」を準拠し、感染症対策を徹底した競技会運営を行いました。



公益財団法人日本陸上競技連盟栄章!



● 秩父宮章
[左] 恵木彪行 (広島陸協・参与) 高校優秀指導者章
[左] 松谷清志 (広島皆実高校・教諭)

● 中学優秀指導者章
高地浩司 (神辺西中学校・教諭)

小体連

新型コロナウイルス感染症の影響で4月当初から県内ならびに全国的な規模の大会も中止となり、今年は全ての大会が中止かと思われたが、広島陸協の先生方のご尽力により9月21日「日清食品カップ」広島県小学生陸上競技交流大会が開催された。この大会は新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドラインに沿って行う小学生の初めての大会だった。困難な状況下でも好記録が生まれた。男子コンバインドAで石川蒼大君(東広島TFC6年)が80mH(70cm)を11.65(+1.9)県小学新・大会新の1351点。走高跳を1m51の1276点。合計で2627点。これは県小学生記録、大会新記録になり、昨年の全国大会優勝者の点数よりも213点上回る好記録だった。その後県民大会でも80mH(60cm)で11.46(0.0)。県小学新・大会新記録をマークする活躍だった。11月1日、東広島運動公園陸上競技場で行われた第32回広島県小学生総合体育大会陸上競技の部でもコロナ禍の中、好記録が生まれた。男子80mH(60cm):石川蒼大(東広島TFC)11.74(-1.2)が大会新。5年女子100m:三好美羽(竹富AC)13.50(-0.3)、山廣諒羽(CASKI)13.53(-0.2)、女子800m:岡藤美空(石内南SKRC)2'25"76が県小学新・大会新記録。4人とも素晴らしいパフォーマンスだった。コロナ禍で大変難しい大会運営にご尽力・ご協力して頂いた先生方、指導者の方々に心から感謝を申し上げます。

御野陸上クラブ総務兼コーチ
原田 芳彰



1第32回
広島県小学生総体女子800m



1第32回
広島県小学生総体5年女子100m



1第32回
広島県小学生総体男子80mH

中体連

中国中学校(男子第81回・女子第30回)駅伝競走大会が無事終了した。織田陸上の出場権がかかった県中学生陸上記録会から、数々の記録会や大会が中止となっていたので、開催にホッと。今年度は、東広島運動公園内にコースを作り、陸上競技場を発着とする周回コースで行われた。コースには、カーブする箇所が多くあり、石畳や段差など、選手にとって走りにくいコースだったかもしれない。しかしながら、コース確定までには駅伝委員長、副委員長をはじめ地元の先生方を中心に計測、会議を何度も重ね、たいへん苦労された経緯がある。また、各スポンサー、県陸協、地元東広島市、多くの方々のご尽力があってこそ開催、本当に感謝を申し上げます。

大会は、女子が、2年連続4度目の優勝となる三原第五中学校(三原市)。男子は松竹中学校(東広島市)が20年ぶり2度目の優勝を飾った。高低差がほとんどない公園内でのコースだったこと

広島県高体連陸上競技部 事務局長
五日市高校 野崎 秀和

高体連

今シーズンは新型コロナウイルス感染症の影響で、全国高校総体(インターハイ)をはじめ、中国高校総体、県高校総体、各地区総体6月まではあらゆる競技会が中止となってしまった。高体連陸上競技部では7月に県高校総体の代替大会を行うことができたが、これがシーズン最初の競技会となった。

全国高校総体が中止となったことを受け、日本陸連が主催し、各都道府県で指定した競技会を一定期間中に実施して、その競技結果をワールドアスレティックスのポイントランキング制度におけるリザルトスアを用いたランキング付けを行う「2020全国高等学校リモード陸上競技選手権大会」が実施された。広島県は県高校総体・代替大会を指定競技会として参加したのだが、その結果男子ハンマー投で西条農業の迫田力哉君が1位になるなど、9名の選手がランキング8位に入った。8位に入った種目・選手は以下のとおりである。男子走高跳3位:小林祐大(福山工)、同棒高跳8位:鏡大心(近大東広島)、同三段跳4位:末盛巧(修道)、同ハンマー投1位:迫田力哉(西条農)、同やり投4位:村上善輝(広島市工)、女子3000m4位:谷本七星(舟入)、同6位:山際夏芽(世羅)、同100mH2位:浅木都紀葉(広島皆実)、同やり投3位:村上碧海(西条農)。

また、10月に広島広域公園陸上競技場で行われた「全国高等学校陸上競技大会2020」においても、広島県勢は大活躍。女子やり投で優勝の村上碧海(西条農)をはじめ、2位には男子走高跳の小林祐大(福山工)、同三段跳の末盛巧(修道)、同ハンマー投の迫田力哉(西条農)、女子100mHの浅木都紀葉(広島皆実)ら4名が入った。その他にも、男子100mで岡田寛人(崇徳)が7位、同110mHで八木優気(広島皆実)が8位、同走高跳で杉原哲平(広島工大)が7位、女子3000mで谷本七星(舟入)が8位、同三段跳で山本萌末(高陽東)が8位、同七種競技で山崎愛奈(高陽東)が4位と、合計11名が入賞を果たした。

3月以降、トレーニングもままならず競技会も開かれない状況の中でも、出来ることを積み重ねて努力を続けた選手諸君に、心から敬意を表したい。そして、今後も様々な困難が待ち受けているかもしれないが、変わらぬ努力により大きくレベルアップすることを心から願っている。

広島県高体連陸上競技部 事務局長
五日市高校 野崎 秀和

学生連盟

広島県学連の今年の振り返り

今年度は新型コロナウイルスの影響により予定通りに大会や練習を行うことが難しかった。4月～9月頃の大会は中止や延期になり、選手たちのモチベーション維持が難しいのではないかと考えていた。しかしこのような状況下でも、9月11～13日に新潟県で開催された天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対校選手権で、広島経済大学の太竹康平選手が男子1500mで第3位という素晴らしい結果を残した。さらに9月22日に道後山クロスランナーで開催された第52回全日本駅伝出場をかけた選考会では、1位広島経済大

学、3位広島大学という好成績だった。1位の経済大学はトップ10人中に6名もの選手が入賞という圧倒的な力を見せた。個人成績では、広島大学の河北竜治選手が2位と20秒近くの差をつける力走で1位だった。加えて河北選手は、10月2～4日にかけて香川県で開催された第43回中国四国学生陸上競技選手権大会の男子3000mSCで見事優勝を果たした。また、広島経済大学の山崎優希選手が男子800mと1500mで優勝、福永恭平選手が5000mと10000mを制し2人が2冠を達成した。男子400mHでは広島大学の大館侑弥選手が優勝した。女子では、800mで広島大学の佐藤更彩選手が、10000mでは文化学園の富士谷苑香選手、そして110mHで広島経済大学の藤岡凜来選手の3名が見事優勝を果たした。今後大会や練習環境がどのようになるか不安な点はあるが、上記のような素晴らしい結果がたくさん誕生しているため、県内全ての選手たちの活躍を大いに期待したい。

中国四国学生陸上競技連盟 広島県支会
幹事長 永田 一貴

実業団連盟

今年度上半期は、コロナ禍で多くの大会が中止となった。当連盟においても、すべての大会や合同合宿を中止にせざるをえない状況であった。選手は感染拡大防止や競技に対するモチベーションを保つことに工夫を凝らし活動を行った。秋口には、感染拡大に細心の注意を払いながら大会が開催された。しかし、今年は昨年までとは違い、時期的にも出場できる大会が限られ、選手も一戦一戦の大切さを感じたのではないかと考える。これから駅伝シーズンを迎え、当連盟からも11月15日(日)に世羅町で開催される中国実業団駅伝に出場する。本大会の上位5チームが元旦のニューイヤー駅伝への出場権を獲得できるため、各チームの検討を折りたい。



1再開後の中国実業団記録会

広島県実業団陸上競技連盟 事務局
マツダ(株) 江頭 健太

マスターズ連盟

2020広島マスターズ陸上競技記録会

9月13日庄原市上野総合公園陸上競技場で標記記録会を行った。今年から参加者全員が陸連登録済みである。マスターズとして今年開催できる唯一の大会になった。今年は新型コロナウイルスによる感染回避のため全国的にマスターズ県選手権大会は中止状況である。日本陸上競技連盟のガイドラインにも高齢者の出場する大会には一段の注意が必要であるとの見解がある。このままだと来年もほとんどが中止となるであろう。自棄の傾向は、何とかしない限り永遠に続いてしまう。記録会開催は、大きなリスクを伴う大会だが、マスターズは選手・関係者の皆様の安全を優先し、大会参加はコロナ感染予防措置優先で体調とよく相談して参加して頂いた。黒木実行委員会を中心に会員の皆様のご協力、無事終わることができた。記録会前日は大雨警報が発令された所もあり、影響も心配されたが皆さんの願いが叶い、当日は天候も回復し、まずまずのコンディションの中、新種目FW2000も取り入れて、よく健闘した。参加者160名の内M30澤田幸治、M70河田慎司、W24西谷さきり、W50芦原広美、W70山田悦子各選手はマスターズ中国記録達成・広島県記録・大会記録続出!!(詳細はHPで「新型コロナウイルス等」に負けない大会で大成功に無事終わることができた。)

広島マスターズ陸上 広報
磯村 公三

五輪選手に走法習う

小学生 河野琴音さん(12歳)
安芸高田市



アテネオリンピック陸上選手200mに出場した松田亮さんの走り方教室が、学校でありました。五輪に出場した人に会う機会はなかなかないので、貴重な体験ができました。私が教室で学んだことは正しい姿勢と腕のふり、足の角度です。正しい姿勢とは後頭部とが肩、おしり、かかとが一直線になることです。腕のふりは、ひじを90度にして、一気に後ろに伸ばします。足は、ひざと足首が90度になるようにします。そうすると速く走れるそうです。実際に走ってみるといつもより速く走れたような感じがしました。私は5年生のときに出場した市の駅伝大会をきっかけに、走ることが好きになりました。中学校でも陸上部に入部し、学んだことを生かして頑張りたいです。



走ることが好き、歩くことが好き、
走る人を応援することが好き、
ワクワクするその気持ち
そう! あなたも陸女!! RIKU★JO

2020(令和2)年10月25日(日) 中国新聞掲載

青少年の夢を応援します!

(順不同)

青少年健全育成 協力企業

- 中国電力株式会社
- 朝日医療専門学校広島校
- 株式会社大創産業

- 株式会社ツルハグループ
ドラッグ&ファーマシー西日本
- 広島駅弁当株式会社
- 広島管公学生服株式会社
- 株式会社中電工
- 有限会社道後山高原サービス

- アシックスジャパン株式会社
- 大家製菓株式会社広島支店
- 株式会社合人社グループ
- 株式会社広島銀行
- JR西日本プロパティーズ株式会社
広島ダイヤモンドホテル

- 広島電鉄株式会社
- 株式会社もみじ銀行
- 株式会社ウイズアート
- 株式会社体育社
- 株式会社ニシスポーツ
- 株式会社BTM

- 広島ガス株式会社
- 広島経済大学
- 広島文化学園
- 特別協力企業
- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス